

「07年新入社員意識調査」より

今年の新入社員は“安定志向”

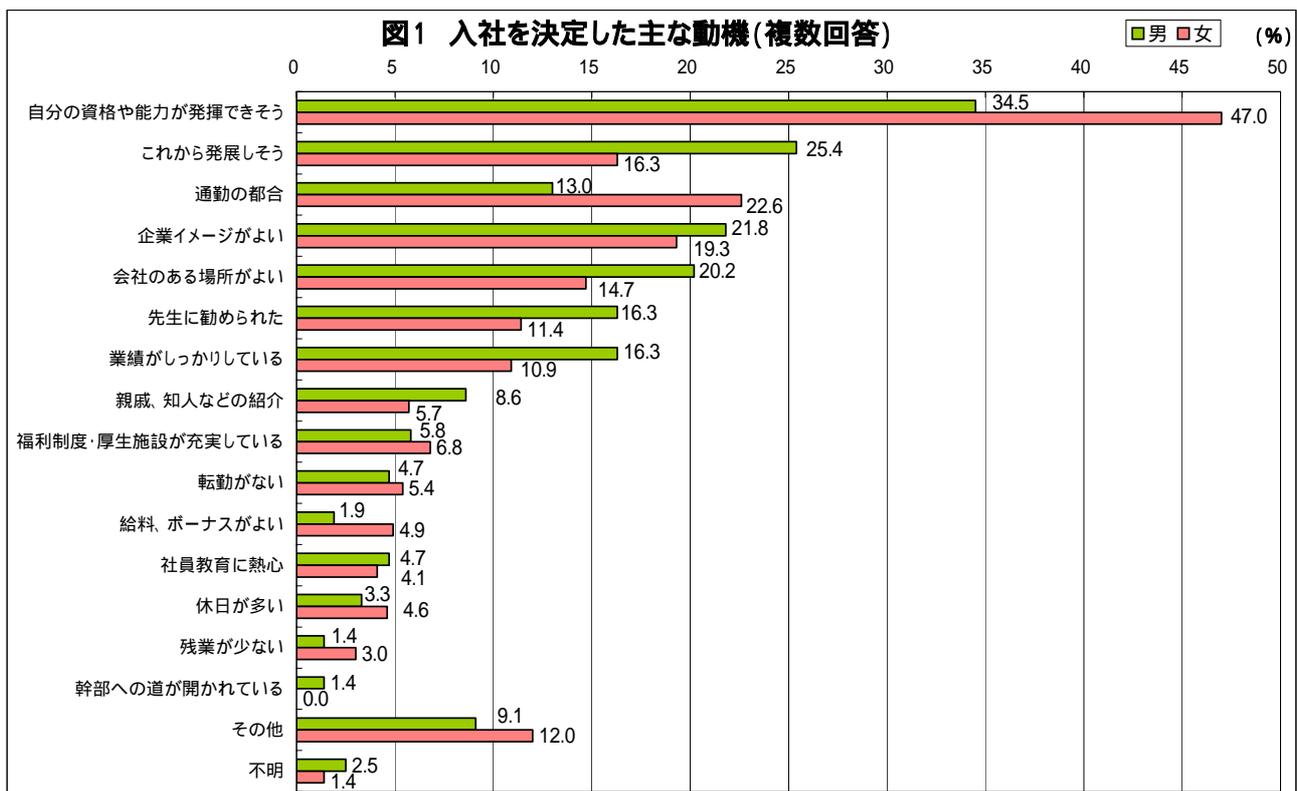
本格的な景気回復に向かう中、事業の強化や、いわゆる“団塊の世代”の大量退職を見すえた大量採用に踏みきるなど、積極的に新入社員を採用した企業も多いのではないだろうか。滋賀県内でも多くの新入社員が新たな一歩を踏み出し、社会人の仲間入りを果たしたことだろう。

当社では、毎年3月から4月にかけて県内企業の新入社員を対象に、アンケート調査を実施している（今年の有効回答数730名、うち男性362名、女性368名）。そこから、新入社員の仕事に対する意識をみてみたい。

入社動機は、「自分の資格や能力が発揮できそう」

「入社を決定した主な動機」を尋ねたところ、男女とも「自分の資格や能力が発揮できそう」が最も多くなった（男性34.5%、女性47.0%）（図1）。続いて、男性は「これから発展しそう」（25.4%）、「企業イメージがよい」（21.8%）、女性は「通勤の都合」（22.6%）、「企業イメージがよい」（19.3%）となった。

男性の回答を昨年と比べると、「自分の資格や能力が発揮できそう」が9.2ポイント減少し（43.7%→34.5%）、一方、「これから発展しそう」（20.5%→25.4%）、「会社のある場所がよい」（15.4%→20.2%）、「先生に勧められた」（8.8%→16.3%）などの回答が増加しており、会社そのものに重点を置く傾向にあるようだ。



責任感を持って、意欲的に仕事に取り組む姿勢

次に、「社会人として必要なもののうち、あなたが自信を持てるもの」を尋ねると、「協調性」が最も多く（28.4%）、「責任感」（24.9%）、「意欲・やる気」（23.8%）と続いた（図2 - ）。また、これから仕事をしていく中で、「与えられた仕事が自分に合わないと思えるときはどうするか」という問いには、68.1%が「どんな仕事でも一生懸命やる」と答えた（図2 - ）。

仕事に対する責任感の強さや、与えられた仕事にやる気を持って取り組んでいこうとする姿勢がうかがえる。

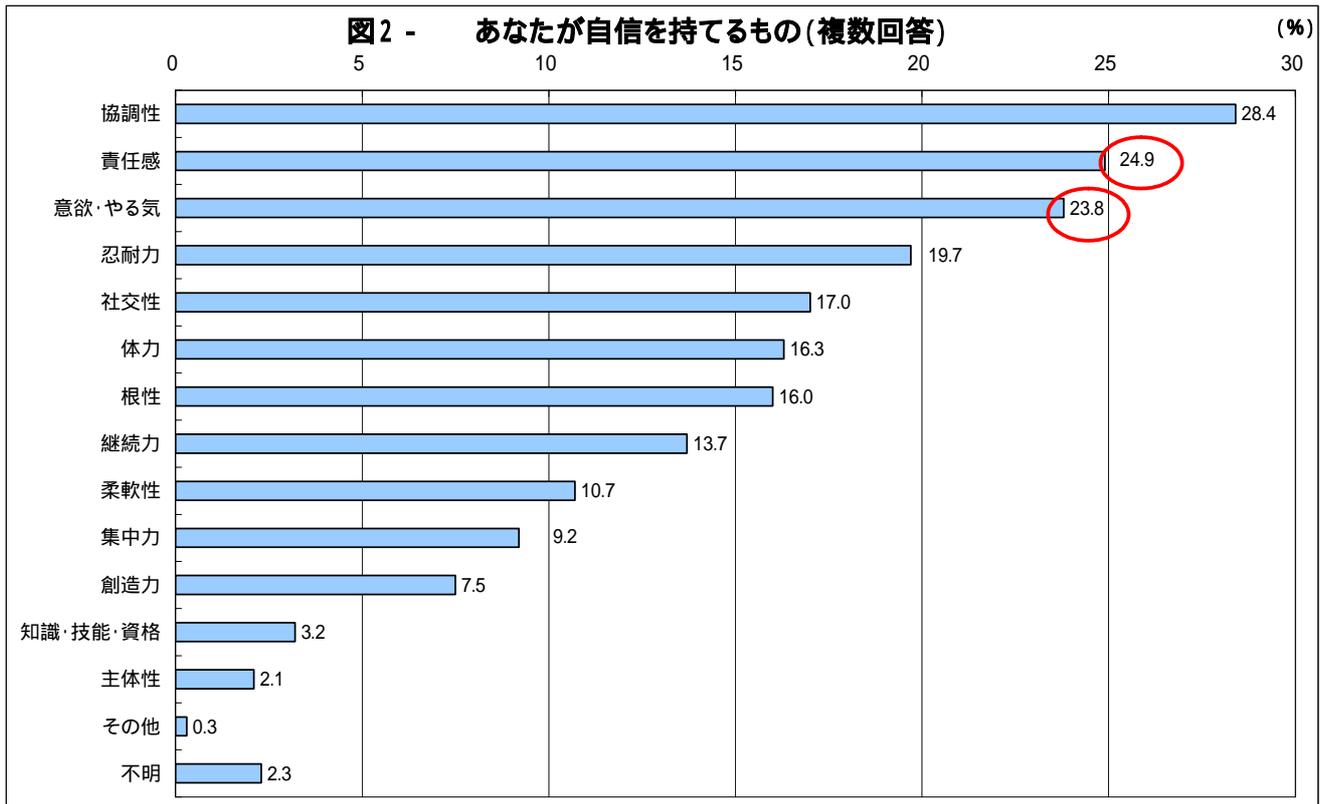
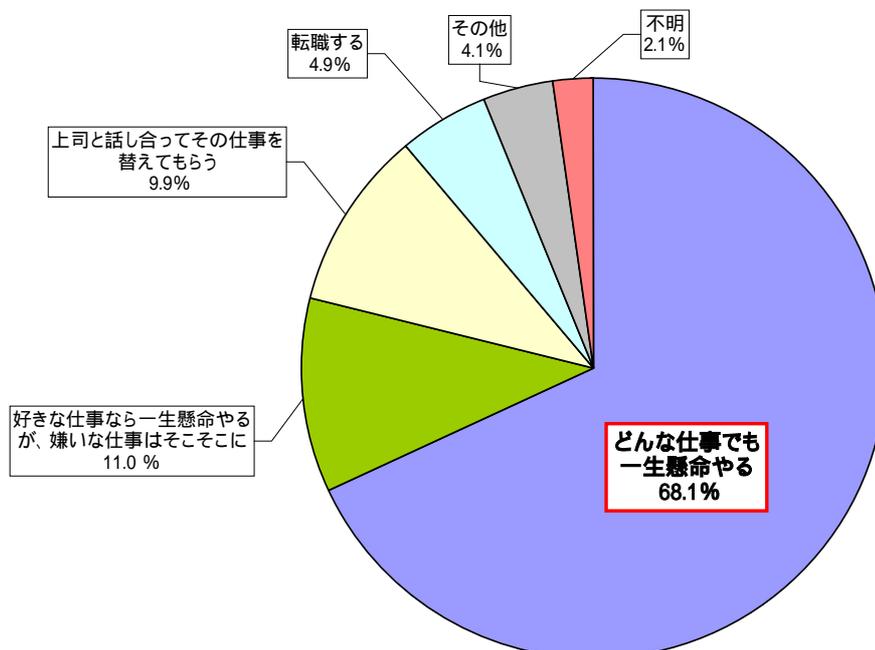


図2 - 与えられた仕事が自分に合わないとき

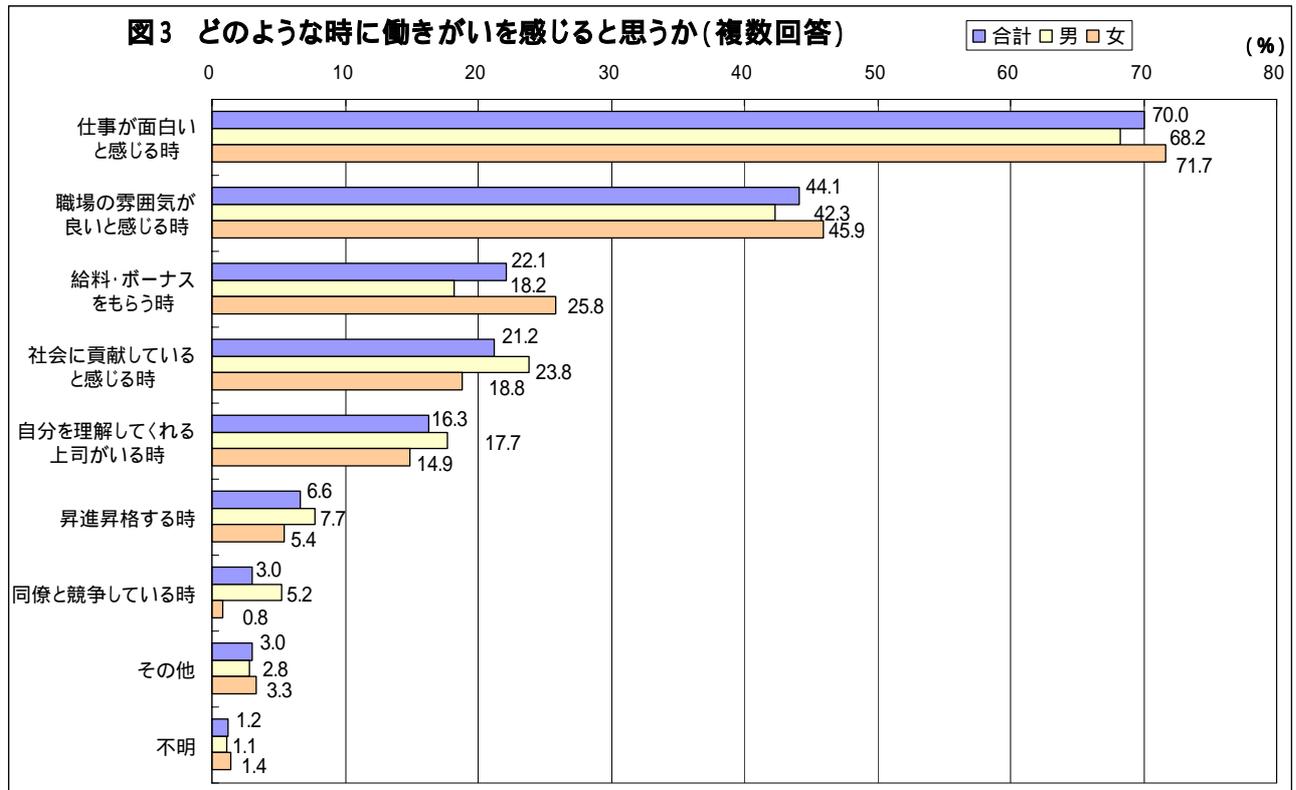


働きがいは「仕事が面白いと感じる時」

今後仕事をしていく中で、「どのような時に働きがいを感じると思うか」との問いには、「仕事が面白いと感じる時」が男女とも最も多く（男性 68.2%、女性 71.7%）次いで、「職場の雰囲気が良いと感じる時」（男性 42.3%、女性 45.9%）となった（図3）。

昨年の回答と比べると、男性は「職場の雰囲気が良いと感じる時」が+6.6ポイント（36.1%→42.3%）、女性は「給料・ボーナスをもらう時」が+6.6ポイント（19.2%→25.8%）それぞれ増加した。

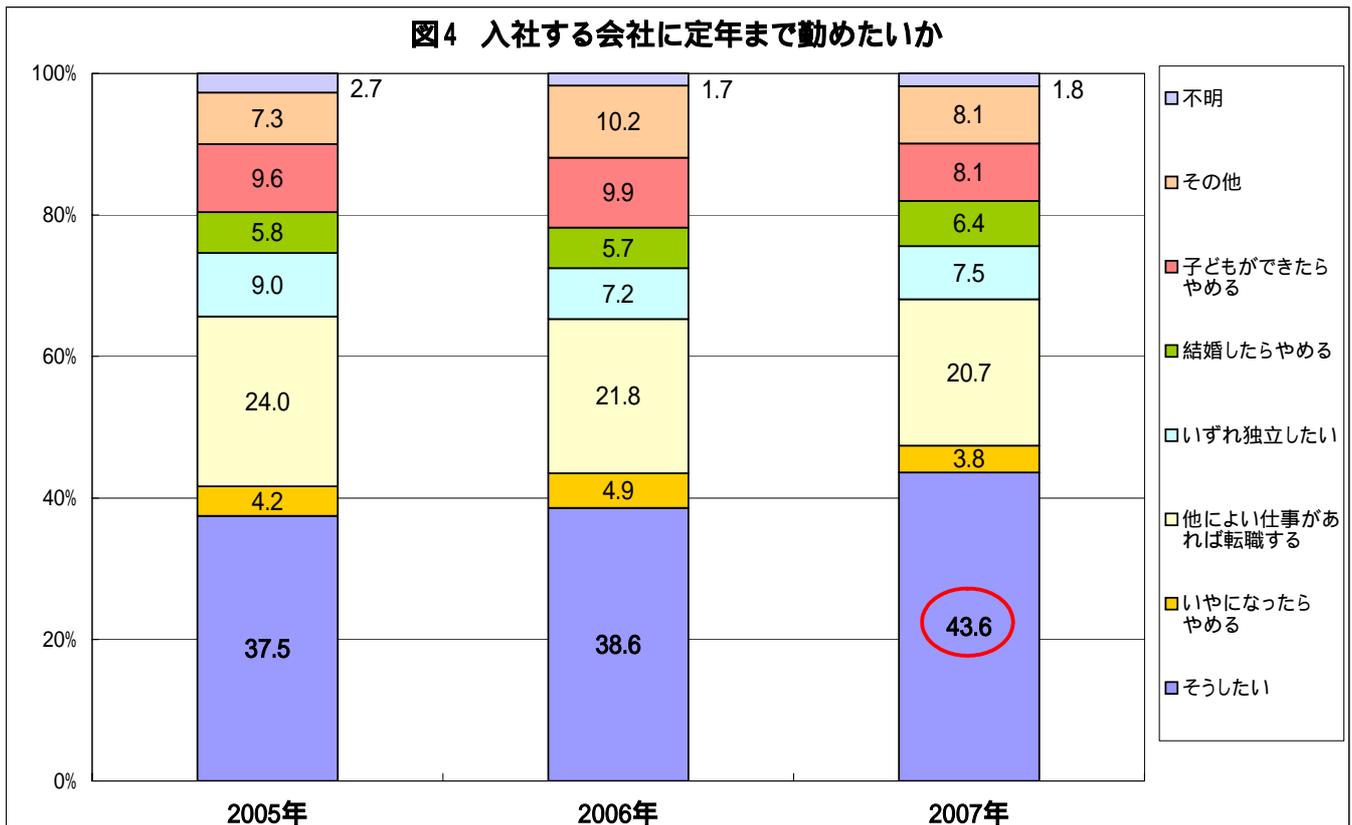
今年の新入社員は、日々の仕事が面白いと感じることに加え、働きやすい職場環境や給料・ボーナスをもらうことにも働きがいを求めており、現実的な面がうかがえる。



“入社する会社で定年まで”が4割強

「入社する会社に定年まで勤めたいか」という問いに対しては、4割強が「そうしたい」と答え、一昨年以降、増加傾向にある（37.5% 38.6% 43.6%）（図4）。一方、「いやになったらやめる」「他によい仕事があれば転職する」という回答は昨年より減少している（それぞれ4.9% 3.8%、21.8% 20.7%）。

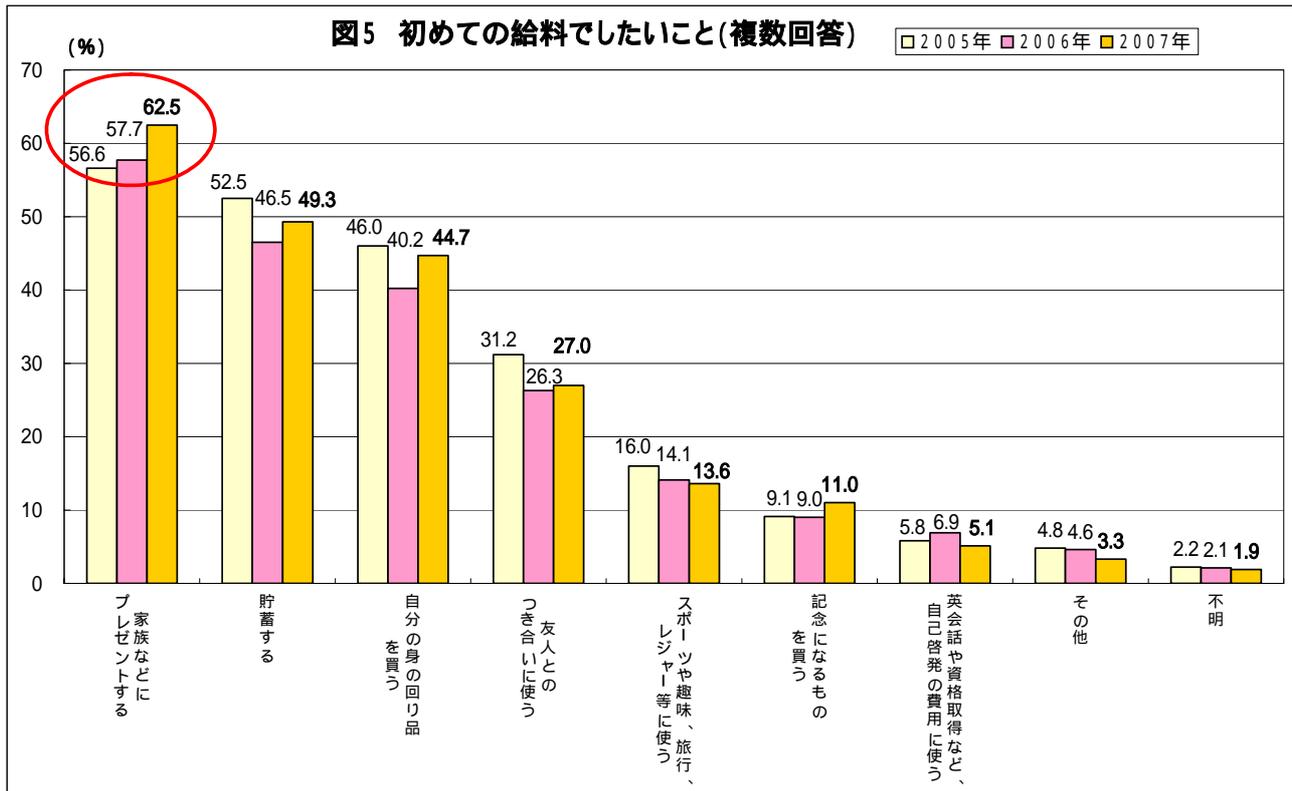
学生優位の求職活動の結果、“ここ！”と決めた会社で永く働き続けたいと考えているようだ。



初めての給料は「家族などにプレゼントする」が増加

「初めての給料でしたいこと」を尋ねると、男女とも「家族などにプレゼントする」が最も多く（62.5%）、「貯蓄する」（49.3%）、「自分の身の回り品を買う」（44.7%）と続いた（図5）。

「家族などにプレゼントする」回答を昨年と比べると4.8ポイント上昇し、その割合は年々増加している（56.6% 57.7% 62.5%）。両親や兄弟など家族への日頃の感謝の気持ちを、初めての給料で表したいと考えており、なかには、家族だけでなく“お世話になった人”や“恩師”という意見もみられた。



理想の上司は「イチロー」「篠原涼子」

「理想とする上司像を有名人に例えると」の問いには、男性の上司としては、昨年に引き続き、アメリカ大リーグ・シアトルマリナーズ外野手の「イチロー」(男性 26 票、女性 21 票)、女性の上司は女優の「篠原涼子」(男性 13 票、女性 37 票)がそれぞれ 1 位となった(表 1)。

「その有名人を選んだ理由」を尋ねると、「イチロー」を選んだ理由として、男性は「目標やり方をはっきり示してくれそう」(11 票)が最も多く、「仕事ができそう」「率先して手本を見せてくれそう」(それぞれ 8 票)と続いた。女性は「率先して手本を見せてくれそう」(9 票)、「目標やり方をはっきり示してくれそう」(8 票)の順となった。

「篠原涼子」は、女性からの支持が圧倒的に高く、選んだ理由としては、「面倒見がよく、何でも相談できそう」(22 票)、「仕事ができそう」「頼りになりそう」(それぞれ 14 票)と続き、男性は「仕事ができそう」(6 票)、「頼りになりそう」(5 票)と、“デキル女”をイメージしているようだ。

表 1 理想の上司像

男性の上司	票	順位		女性の上司	票
イチロー	47	1	1	篠原涼子	50
星野仙一	46	2	2	久本雅美	44
島田紳助	39	3	3	黒木瞳	29
明石家さんま	35	4	4	和田アキ子	23
所ジョージ	25	5	5	嘉田由紀子	22
古田敦也	17	6	6	藤原紀香	15
阿部寛	9	7	7	松嶋菜々子	13
中田英寿			8	仲間由紀恵	9
東国原英夫				YOU	
松井秀喜			10	安藤優子	8
		天海祐希			

“協調性”を生かし、さまざまな変化に対応を

今年のトップ訓示では、「挑戦・チャレンジ」に加え、「信頼」「使命感」を挙げる企業も多かった。“安定志向”に思える新入社員だが、まずは持ち前の“協調性”を生かし、少しでも早く会社に溶け込んでもらいたい。さらに、現状に満足することなく、与えられた仕事には前向きに、かつ試行錯誤しながら取り組んでいてもらいたい。

企業の不祥事が相次ぐ中、使命感を持って仕事と向き合い、さまざまな変化に対応できるような柔軟性を身に付けることが期待されている。また私たちも、今一度日々の仕事を見直し、新入社員のパワーに負けぬよう、フレッシュな気持ちで取り組んでいくべきである。

2007年6月5日

しがぎん経済文化センター

堀 有美子